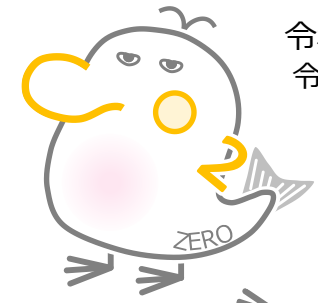




令和8年度県市町村GX推進会議
令和8年5月26日(火) 14時30分～

資料2



宮古市の取組

～ 夜間連系太陽光発電事業について ～

浄土ヶ浜
いいイロ
1116



浄土ヶ浜エターナルグリーン





■ 地域内経済循環を作り出す

目指す姿 エネルギーの地産地消による自立的な地域経済の構築



※出典：「地域経済循環分析 2018年版 Ver.7.0」
(環境省)

- ◆ 有効活用されていなかった地域資源をエネルギーに転換
⇒経済的な価値を創出
- ◆ エネルギーに関わる費用を市域内にとどめる





目指す姿 エネルギーの地産地消による自立的な地域経済の構築

地域内経済循環の創出



市が積極的に参画 = 宮古市版シュタットベルケ

●エネルギー事業の利益を市民へ還元 「よりよい市民サービスの提供」

- ・誰もが移動しやすい公共交通
- ・子育て世帯への支援
- ・充実した教育環境
- ・活力に満ちた産業 など

⇒地域課題の解決へ





■ 脱炭素に向けて

<当市の地域脱炭素に向けた目標>

2020年10月9日「宮古市気候非常事態宣言」
11月11日「宮古市2050年
ゼロカーボンシティ」

目指す姿

2050年
カーボンニュートラル

<具体的な取り組み> 環境省の補助事業を足掛かりに、地域脱炭素化を推進

令和5年4月採択



【環境省】

『重点対策加速化事業』
(令和5年度～令和9年度)

●脱他炭素先行地域以外で
事業実施

令和4年11月1日選定



脱炭素先行地域
岩手県宮古市

【環境省】

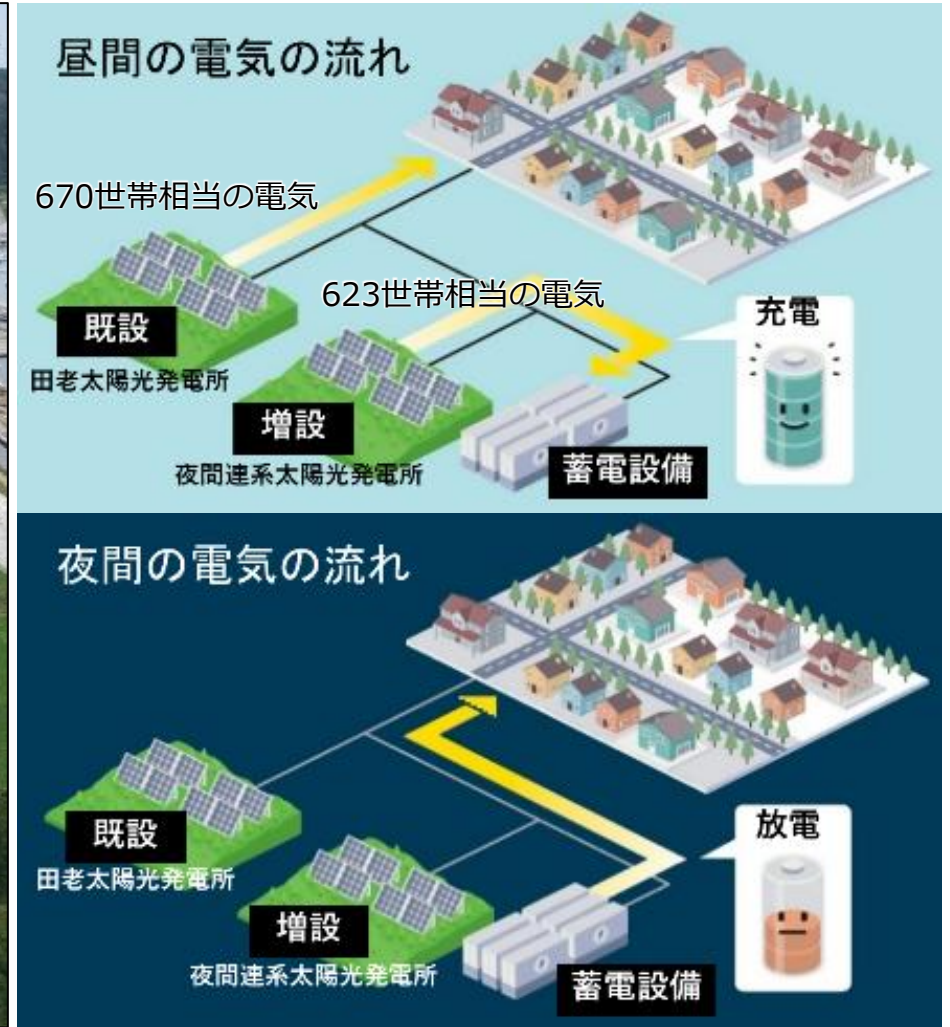
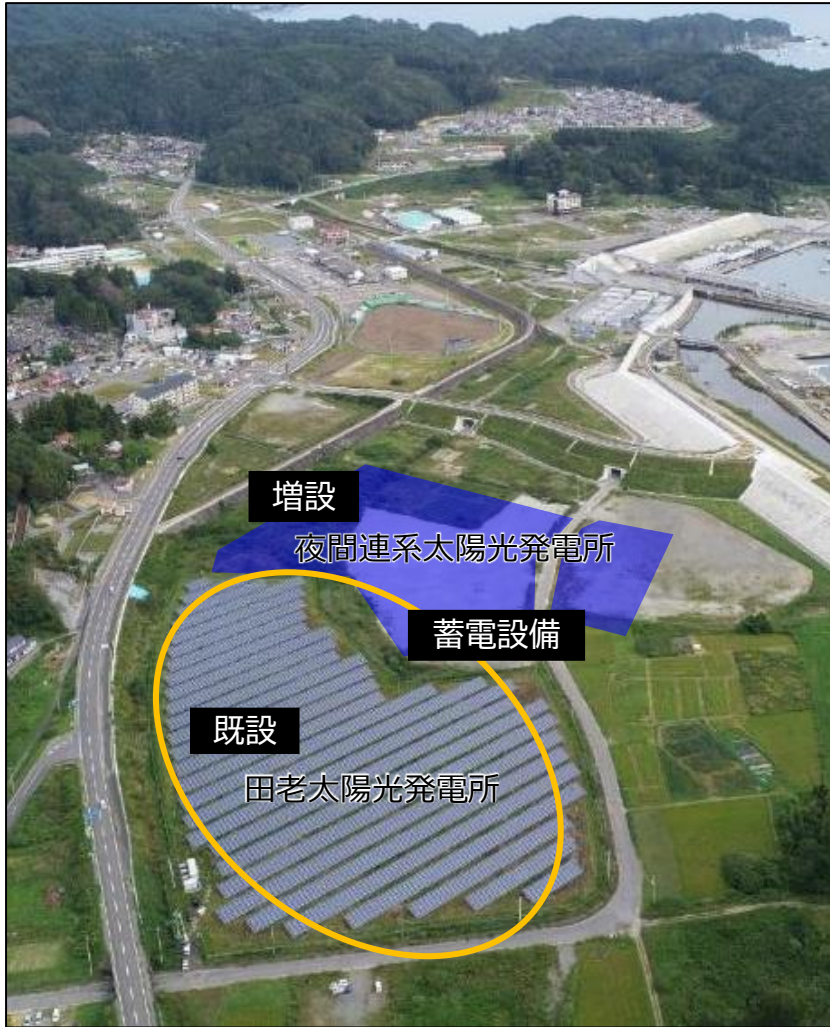
『脱炭素先行地域づくり事業』
(令和4年度～令和9年度)

●脱他炭素先行地域(中心市
街地/田老地区)で事業実施





■ 事業の仕組み（蓄電池併設による系統接続）



※イラスト出典：日本国土開発(株)ホームページ





■ 事業概要

東北電力ネットワーク管内での初めての商用化事業



項目	夜間連系太陽光発電所・蓄電池の内容
事業主体	田老発電合同会社
出資者（出資比率）	宮古市（50%）、日本国土開発株式会社（50%） ※出資金：1億2千万円
事業地	宮古市田老字向山13番1 ほか31筆
地積	33,832㎡
事業期間	令和7年12月から30年間 （事業計画上）

項目	夜間連系太陽光発電所・蓄電池の内容
設備容量	モジュール出力 : 2,969 kW
	PCS出力 : 1,980 kW
	蓄電池容量 : 7,987 kWh
売電先	宮古新電力株式会社
総事業費	14.9億円





■ 事業スケジュールなど

項目	R6				R7								R8					
	9	10	11	12	1	...	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
工事	土木工事		電気工事												商業運転開始			
		▲	10/29起工式											▲	12/20竣工式			
匿名組合出資			契約															
市民ファンド																	説明会	契約
再エネメニュー						対象施設絞り込み						補正			再エネメニュー切替			

- 工事
 - 令和6年8月28日 : 土木工事着手 (土地造成)
 - 令和6年10月29日 : 起工式 (@事業用地内)
 - 令和6年11月 : 電気工事着手 (~令和7年11月)
 - 令和7年12月 : 商業運転開始 (12月20日竣工式)
- 匿名組合出資 : 令和6年12月 (2日契約、19日実行)
- 市民ファンドの実施 ➡ 地域内経済循環の実現、市民参加型の再エネ事業
 - ▶ 令和8年1月~1ヵ月間 (80,000千円 (一口10万円)) ➡ 11,900千円申込 (個人26名、法人2社)
- 宮古新電力の再エネ電力メニューへの切替
 - ▶ 夜間連系太陽光発電所の電力を公共施設へ供給 (18施設)



(参考) これまでの取組一覧



年 2012 2013 2014 2015 2016 2017 ~ 2020 2021 2022 2023 2024 2025
 度 (H24) (H25) (H26) (H27) (H28) (H29) (R02) (R03) (R04) (R05) (R06) (R07)

